

○議長（小林哲雄）

一般質問を続けます。

7番、茅沼隆文議員、どうぞ。

○7番（茅沼隆文）

7番、茅沼です。それでは、中部地域のインフラ整備について、町の重要路線であります町道201号線、旧県道ですね、と接続道路の整備について質問をいたします。

質問の中で、町道の番号が出てきますけれども、町道201号線というのは、十文字橋から文命中学校、吉田島総合高校、開成小学校の前を通っている旧県道のことです。それから、町道109号線という番号が出てきますけど、これは酒田保育園の東側を通っている道路。それから、町道227号線という番号がでてきますけれど、これは中之名の坪井歯医者のところから宮台東交差点に抜けるこの道路のことを指しておりますので、あらかじめご承知おきいただきたいと思います。

開成町では、従前から、北部地域をふるさとゾーン、中部地域をくらしゾーン、南部地域をときめきゾーンとして、三つのゾーンに分けてまちづくりを進めてきました。

北部では、昭和53年から今日まで、国、県の交付金、補助金制度を利用しながら、総額47億2,300万円の費用をかけて、水路、農道などの整備をはじめとする圃場整備を進めてまいりました。また、南部では、平成19年から総額73億4,200万円をかけた土地区画整理事業を進めてまいりましたが、この事業もいよいよ最終段階に入り、魅力的な新しい市街地の姿が完成しつつあります。さらに、北部では、昨日の同僚議員の一般質問でも議論されましたけれど、地域の活性化に向けた懇話会を設置し、さらなる活性化に向けた取り組みが始まっております。

一方、中部地域は、公共施設や商店が集まっており、町の中心部としてその機能を担っている地域であります。前述のとおり、北部や南部地域に資金を投入してきたために、インフラ整備が後回しになったことは否めません。昨年実施された路面性状調査でも明らかでありますように、中部地域では、特に道路の状態がかなり悪くなっているということは周知のとおりだと思います。本年3月の一般質問では、開成町の地域ブランド戦略を構築することについて議論いたしました。1時間の議論の中で、我が国では人口が減少し、少子高齢化が進み、自治体の経営が厳しくなっている。一方で、我が開成町では、人口の増加が予想されておまして、人口の減少に歯どめをかけなければならないほかの市・町とは異なる行政運営が必要であり、戦略的な方策を今講じなければならない。開成町に住んでよかったと一人でも多くの方が実感できるまち、明るい未来に向けて人と自然が輝くまちをつくり上げていくために、開成町の地域ブランド戦略を構築するべきであると提言いたしましたが、これに対して、ぜひ策定していくという趣旨の町長答弁でしたから、既に策定作業に入っていると思います。

ご承知のとおり、本年5月、日本創成会議が、2040年には896の市町村が消滅する可能性があり、さらに523の市町村が消滅する可能性が高いと発表して、大きな話題になりました。神奈川県西部では、2市8町のうち、六つの町が消滅する可

能性が高いという町に分類されました。これをきっかけに、全国の市町村では、生き残りをかけて、それぞれの自治体の魅力を掘り起こして、価値観を高める取り組みを始めております。開成町の地域ブランド戦略は、まさにこのような時代背景の中で取り組むべき事業であると確信しておりますので、行政においては、しっかりとスピード感を持って取り組んでいただくことを期待しております。

さて、そのように開成町の地域ブランド戦略を構築して、町の内外に広く開成町の魅力をアピールし、開成町の価値を高めていこうというときに、町の中心部の道路が穴だらけ、でこぼこでは、どうにもなりません。町の魅力を高めるためには、インフラをきちんと整備しておくことが必要です。

ついては、昨年行われた路面性状調査の結果も踏まえて、①従来から町の主要幹線であった県道、旧県道、町道 201 号線には、文命中学校、吉田島総合高校、開成小学校の公共施設、さらに町民に長く親しまれてきた商店などが多く設置されており、今後も重要な生活道路であることは疑いありません。都市計画マスタープランでは、201 号線においては、歩道部のカラー塗装や水路、水質の適正な維持を図り、本地域におけるシンボルロードを形成するとあります。単なる舗装の打ち替えや拡幅ではなく、この道を利用する人が安心感を覚える魅力ある道として整備することが求められております。ブランディング、すなわち地域ブランド戦略の観点からも重要な位置づけになります。本路線に対する町の方針をお伺いいたします。

②さらに町道 201 号線に接続している町道 109 号線、酒田保育園東側の道路や中之名から宮台交差点に抜ける町道 227 号線など、早急に改修が必要であります。この路線の整備方針、並びに昨年実施された路面性状調査結果に基づく全体的な整備計画についてお伺いいたします。

なお、町長は毎日自転車で町内を回っておられますので、私が指摘しました道路の現状については十分にご理解いただいていることと存じます。問題は、これらの指摘事項に対して、いつどのように対処するかというロードマップが明確でないということであります。財政的な課題もあると思いますが、この辺を考慮して、明確な答弁をいただきますようお願いいたします。

以上です。

○議長（小林哲雄）

町長。

○町長（府川裕一）

それでは、茅沼議員のご質問にお答えします。

まず先に、茅沼議員が北部で 47 億、南部で 73 億という数字を出されていますので、ここが少し、ちょっと誤解があるといけないので、町が全部財政投入している部分ではないものがありますので、先にその部分から説明をさせていただきたいと思っております。

これまで町が行ってきた北部及び南部の基盤整備への投資額について先に説明をさせていただきます。

町では、早期の段階から、町北部地域の農用地の保全を図り、次に南部地域の新市街地整備を図っております。引き続き北部地域と中部地域の整備を計画もしております。そのため、開成町の北部地域は、既に昭和５３年以降現在まで、国県補助金と町の一般財源をあわせて約４７億２，３００万円をかけて、水路や農道を含む農業振興地域の基盤整備を実施をしてきました。一方、開成駅周辺の土地区画整理事業では、平成１９年度からは、開成町南部地区土地区画整理事業を実施しております。この土地区画整理事業は、組合施行で実施をしているため、総事業費は７３億４，２００万円ですが、財源内訳では、国県補助金及び町負担金の総額は３１億６，４００万円で、地権者負担である保留地処分金が４１億７，８００万円となっております。

このように、開成町南部地区で行っている区画整理事業は、北部地域で行っている土地区画整理事業とは財政構成が大きく異なっているということはまずご理解をいただきたいと思います。

それでは、一つ目の町道２０１号線についてお答えをいたします。

町道２０１号線は、昭和４７年から神奈川県と移管調整をして、昭和５０年１２月に開成町道として認定されている道路で、十文字橋から町の中心部を東西に横断し、文命中学校、吉田島総合高校、開成小学校等の公共施設をつなぐ歴史ある道路であります。昭和６０年ごろの町道２０１号線沿いには、四つ角商店街として多くの商店が立地をし、当時に設置した商店街街路灯が数多く今も設置をされております。しかし、設置後の経年劣化による支柱の腐食や電球の球切れなども頻繁に発生をし、今年度に商店街街路灯を一新をし、通常の防犯灯よりも高照度の防犯灯照明を設置することで、夜間でもほかの道路にはない幹線道路のイメージアップを図っていきたいと思っております。

また、平成２４年度に策定した住環境整備マスタープランでは、町道２０１号線を町内の主要集落と市街地、主要公共施設を結ぶ生活軸のかなめである地区集散道路として位置づけ、重要路線としております。この住環境整備マスタープランでは、町道２０１号線の計画最終改良幅員は７メートルと、現況より広くし、車道と歩道の分離構造を取り入れ、安全・安心の確保を図る計画となっております。

なお、当分の間は、路面性状調査の結果を踏まえ、計画的に舗装の打ち替えを実施し、適正な維持管理と安全・安心の確保を図る予定であります。

上島・河原町自治会付近では、歩道をわかりやすくするため、道路の両面に煉瓦舗装を実施し、区分をしております。しかし、経年劣化により、一部の煉瓦は、破損したり剥離したりしている現状であります。このため、車道舗装の打ち替えにあわせて、煉瓦舗装部分を通常のアスファルト舗装とし、歩道部分を着色することで、車両運転者に視覚的誘導により通行帯をわかりやすくする等の工夫をし、魅力ある親しみやすい道路にしたいと考えております。

次に、二つ目の町道１０９号線、２２７号線についてお答えをいたします。

初めに、町道１０９号線は、町道２００号線から上延沢自治会館までの間について、今年度に舗装の打ち替えを予定しております。

町道 227 号線については、平成 25 年度に実施した路面性状調査結果をもとに、日本道路協会の舗装維持管理指数（MCI 値）から見ると、早期に舗装補修が必要とされている路線となっております。しかし、昨年 4 月からスタートした第五次開成町総合計画では、路面性状調査結果が反映をされておられません。この調査結果を踏まえ、地域特性や利用環境を加味した舗装維持整備計画を策定し、計画的な維持補修を図るため、早期に総合計画の中の実施計画に反映をしていきたいと考えております。

なお、路面性状調査は、およそ 5 年単位に定期的に調査を実施し、舗装維持補修の進捗状況や早期に必要な舗装維持補修箇所の確認を行うことで、町道の安全な維持管理がなされ则认为しております。

以上です。よろしくお願いいたします。

○議長（小林哲雄）

茅沼議員。

○7 番（茅沼隆文）

はい。それでは、再質問になります。

まず、町道 201 号線というのは、冒頭に申し上げましたとおり、小中高等学校が接しておりまして、この生徒・児童、合計 1,500 人を超える全ての人々が利用しているとは申しませんが、彼らのほとんどが毎日通学に利用しております。この道路の歩行者数は、町内で最も多いと私も理解しておりますが、行政もそのように認識していることと存じます。この路線は、全線にわたって傷みがひどく、早急に対策が必要であると思いますが、その中でも、特に傷みがひどい箇所は、一日も早く応急処理する必要があると思います。

町長の答弁では、当分の間は計画的に舗装の打ち替えや河原町・上島の歩道部分を着色し、魅力ある親しみやすい道路にしたいということでしたが、ここでおっしゃる「当分の間」というのはいつのことなんでしょうか。また、吉田島総合高校前や旧四つ角から西が円通寺交差点までの傷み具合がかなりひどい、こういう箇所についてはどのように計画しているのかお答え願います。

○議長（小林哲雄）

街づくり推進課長。

○街づくり推進課長（池谷勝則）

それでは、答えさせていただきます。

まず、一つ目の「当分の間」ということでございますが、先ほど答弁にもありましたように、昨年の四月からスタートいたしました第五次総合計画、前期基本計画の実施計画では、現在の舗装の打ち替えにつきまして、一部分だけ実施するという記載にはなっております。しかし、舗装の打ち替えといたしましては、路面性状調査の結果が反映されていないというようなことがございます。特に、吉田島高等学校の西側の舗装の傷みとか、優先的に悪いところが出ているところではございますが、この当分の間、完全に 201 号線を改修するまでの間は、この路面性状調査の結果を踏まえ、部分的にでも補修をしていく予定でございます。

また、河原町・上島地区の両歩道について、今現在煉瓦等あるわけですが、実際に経年劣化が激しく、剥離または破損等が発生しておりますので、こちらにつきましては、今現在、部分的に悪いところを撤去し、舗装で埋めているところがございます。全体的にバランスを見計らって、車道部の舗装が間に合わない場合は、その両側の歩道部分だけでも煉瓦を撤去し、通常の舗装にして、カラー舗装等にして、運転者のほうに視覚的な誘導をしていきたいと、このように考えております。

次に、二つ目の件でございますが、吉田島高等学校の前に、特に先ほど言いましたように、舗装の悪いところがございます。この後、審議になりますが、今年度この後の補正予算等で、悪いところにつきましては、部分的にでも補修を進めていきたいと考えております。また、四つ角から円通寺交差点までの悪いところにつきましても、部分的に実施したいと考えております。特に、一石モータース西側では、全体的に舗装の傷みが大変悪くなっておりますので、早期の時点で舗装の打ち替えを実施したいと考えております。

○議長（小林哲雄）

茅沼議員。

○7番（茅沼隆文）

前向きなご答弁をいただきました。

もう一回だけお聞きしますね。部分的に舗装する等という補正予算書を見ても、確かに道路補修で500万円ぐらい計上されておりますが、これから議会での議決案件になりますけれど、今年度中にこれが実施できるというふうに理解してよろしいんですか。今申し上げましたのは、吉田島総合高校前のところと、今おっしゃった一石モータースから西のところ、この近辺については、今年度中にできるというふうに理解していいのかしら。明確にお答えいただきたい。

○議長（小林哲雄）

街づくり推進課長。

○街づくり推進課長（池谷勝則）

この後審議していただくところに入っております内容になるのでございますが、今回は、特にこの路線、一番悪いところというところの中では、吉田島総合高校の前の、特に南側の車線分が余りにもひど過ぎて、特に雨の降ったときに、生徒さんたちが大変困っているというような状況がございます。こちらの部分は、特に今年度補整をいただいて、実施したいと考えております。一石モータースから西側の路線につきましては、まだ若干あるのかと思っておりますので、早期に、来年、再来年の時期に実施するような形では計画を入れております。

○議長（小林哲雄）

茅沼議員。

○7番（茅沼隆文）

吉田島総合高校の前の道路については、吉田島総合高校の教頭先生も非常に楽しみにしているんですよ、早く改修してほしいということですね。それから、一石モーター

スから西側のところ、来年、再来年というんではね、もたないですよ。町民の方々、あの辺に住んでいる住民の方々も、いろいろと言ってくるわけですよ。まず、こういうふうに傷んでいるところはすぐにでも補修するべきだ、みっともないじゃないかと。これは、来年、再来年なんて言わずに、今年度中に必ずやっていただきたい。これは私から要請しておきます。この件に関しての返事は、また後ほどいただきたいと思います。

それから、町道 227 号線の補修について、第五次総合計画実施計画に反映させるということでしたけれど、それでは、補修の時期はいつのことになるんでしょう。第五次総合計画実施計画に反映させるというのは、まだ数年先の話になってしまうんじゃないかと心配しております。特に、町道 109 号線については、酒田保育園の東側、早急に補修が必要だと思いますが、円通寺と延沢の境目あたりから上延沢自治会館までの道路の状況と、227 号線の道路の状況を比較していただければ、どちらの優先順位が高いのか、明白であると思います。両方の道路の状況をご承知だろうと思いますが、見解はいかがですか。

○議長（小林哲雄）

街づくり推進課長。

○街づくり推進課長（池谷勝則）

まず、一つ目の 227 号線というよりも、路面性状調査結果の反映という形になるかと思います。前回、説明もちょっとさせていただいたんですが、路面性状調査の結果、今、MC I 値ということで、悪い数値が出ております。こちらにつきましては、皆さんにもう、見ていただいているところですが、現在の総合計画の実施計画の中に書いてある路線もほぼ重複している部分がございます。ただ、実施計画の中の計画年次、こちらを少し前後させる必要がある、または、路面性状調査をもとに悪いところから実施していくという形の中での変更をしていきたいと。このために、今年度というよりも、来年の事業に対しては、性状調査の結果を反映させるような形で進めると。なお、総合計画の実施計画には、来年度ローリングを考えているということなので、そのときの見直しで、適性に変更していきたいと、このように考えております。

また、109 号線、酒田保育園から上流と 227 号線の状況はどうなのかということでございますが、今私のところに、手元に、路面性状調査の結果で、100メートル単位のデータと 20メートル単位のデータ、これは絵表示で、数値表示じゃないんですが、絵表示で出てはおります。この内容を見ますと、利用者とか地域の特性というのは別で、路面の状況だけでございますが、109 号線と 227 号線、ほぼ同じ、若干 109 号線のほうが悪いというデータが出ております。今回は、これらをもとに、優先的に 109 号線を先に行っていきたいと。この MC I 値、指数でございますが、指数が 10 段階のうち、数字が大きければ一番いいですよと。特に、境界のほうでは、4 以下はもう早急にやりなさいとか、3 以下は、本当にすぐにやってくださいという評価になっております。今、両方あがっているのが、3 以下の数値になっておりますので、私どもはここ数年で対応していきたいと、このように考えております。

○議長（小林哲雄）

副町長。

○副町長（小澤均）

昨日の高橋議員からも同じようなご質問をいただいて、私のほうでお答えをさせていただいたんですけども、今も道路管理者という立場の中で、主体性がないようなお答えをして大変申しわけないというふうに思いますけども。

基本的には、道路ですとか河川の整備等については、自治会からご要望をいただいたものを翌年度の予算に反映していくというスタイルをとってきました。そのことに、余りにも、いわゆる予算づけの部分について径行してしまったといったことの中で、道路管理者として、または河川管理者という立場の中で、現場に行って、どこがどういうふうに悪いのかといったことの検証そのものが少しおろそかになっていたといったことは反省をしたいというふうに思います。

昨年、町道においては、機械をつかった路面性状調査、そういったものを、客観的な評価の中で、どこの町道が傷んでいるのかというふうな数値的なことが出ましたので、現在の町の総合計画の、いつどういう路線を整備していくのかという実施計画の中では、ちょうど路面性状調査を中間でやっている状況がありましたので、計画の中にはなかなか反映ができなかったといった事情があります。早急に、その路面性状調査の結果に基づいた実施計画の見直しをさせていただきたいというふうに思います。

とはいいいましても、限られた財源の中で、それを計画的に、効率的に進めていかなければいけないわけですから、ご要望、ご意見いただいた部分について、そういったことを踏まえながら、全体的なプログラムをつくって、また、議員の皆様にお示しをさせていただきたいというふうに思っています。

以上です。

○議長（小林哲雄）

茅沼議員。

○7番（茅沼隆文）

それでは、実施計画に反映させていきながらも、町民や我々からの要望はしっかりと認識していただけるということです。そのようにお願いしたいと思います。

それから、先ほど来から路面性状調査についてのお話が出ておりますので、昨年実施された路面性状調査についてお聞きしたいと思います。

この路面性状調査では、補修の優先順位づけが行われていますけれど、歩行者や車両の通行量が少ない路線が優先順位の上位に位置づけされているのが見られます。この順位づけは、当該道路を利用している人たちの生の声が反映されているようにはちょっと見えないんです。冒頭の町長答弁でも言われましたように、地域特性や利用環境を加味した構想維持、整備計画を策定して、計画的な維持補修を図る必要があると考えております。住環境整備マスタープランでも記述されておりますけれど、町民の生活、コミュニティを支える生活利便性というのをもっと考慮しなければならないと思っています。

そこで、路面性状調査で策定された補修優先順位を見直していただこうと思っていますが、先ほどの副町長の答弁では、来年見直す、第五次総合計画の実施計画に反映させるということです。これはそのとおりにしっかりお願いしたいと思いません。

さらに、先ほど町道１０９号線の補修について触れましたけれど、整備のスパンが長過ぎるのではないかというふうにちょっと心配しております。当該道路を利用している人に言わせますと、先ほど申し上げましたように、まず、傷んでいる部分だけでもいいから修復してほしいというのが本当の素直な声です。だけど、とは言いながら、当該部分だけを修復してやっではその場限りの修復になってしまいますので、せめてこの整備のスパンを１００メートル単位ぐらいにするべきだというふうに考えておりますけれど、この路面性状調査結果に基づいた補修計画の中で、整備スパンの考え方はどういうふうになっているかお聞かせいただけますか。

○議長（小林哲雄）

街づくり推進課長。

○街づくり推進課長（池谷勝則）

まず、調査の内容でございますが、こちらにつきましては、国等の指針で、その調査の方法、また結果のまとめ方が出ております。その中では、原則１００メートルを単位というのが一つございます。これは大きい市、または大きい路線になると、一路線が何キロという形でありますので、１００メートル単位でまとめていくという考えが一つあるのかなと考えております。それがそのまま開成町にも適応されてしまうのかということでございますが、システムが、まだ細かいところまで開発されていないというようなこと、また、データが多くなれば、それだけシステムを使う、または私たちがそれを判読するのが大変になってくるというのが一つございます。

現在出ているところでは、今申しましたように、１００メートル単位でのデータは出ておりますが、５００メートルを超える路線につきましては、５００メートルを一つの単位として、その１００メートルずつのものを５ブロックあわせた形でカウントするような形になっております。ですので、６００メートルの道路であれば、５００メートルの区間と１００メートルの区間という形には、調査結果上はなります。

今指摘されましたように、１００メートルの中でも、例えば５０メートルだけはめちゃめちゃ悪くて、残りの５０メートルはすごくきれいになっているよというところもございます。結果としては、１００メートル単位で出てしまうということなので、その中の細かい部分はちょっとわからないのが今の調査結果になっております。

ですので、これから実施するに当たりましては、今までのデータをベースに、必要なところというのはわかりますので、今度は現地に私たち直接伺わせていただきまして、決めていきたいと。ただ、１００メートルとかいう単位ではなく、私たち施工する業者の考えからいきますと、施工性を考慮しても、なるべく大きな交差点から交差点の区間、または一番悪い部分が直線の長いルートであれば、その部分を含んだ施工性を考慮した区間を選定していきたいと、このような形で、区間についてはちょっと



弾力的に考えていきたいと考えております。

以上です。

○議長（小林哲雄）

茅沼議員。

○7番（茅沼隆文）

確かに、整備する以上は、この効率、お金がかかることですから、効率を十分に考慮して決めなければいけないと思いますけど、あんまり長いのではね、かえって効率が悪くなるということもありますので、ぜひこの整備スパンに対する考え方はしっかり取りまとめておいていただきたいと思います。まず、目も当てられない箇所の応急処理、これが極めて大事だろうなというふうにも思っております。

それでは、次に、開成町の地域ブランドとしての中長期での道づくりについて申し上げたいと思います。

町道201号線には、住宅の建て替えや更地化している箇所が大分見受けられます。道路の拡幅や歩道整備など、将来的により高い安全性と快適性を確保するためにも、中長期的に計画を立てて、先行して用地を確保していくべきであると思います。冒頭の町長答弁でも、町道201号線の計画最終改良幅員は7メートルとして、車道と歩道を分離構造としているというふうにおっしゃいました。これはいつまでに達成できるのかというのが気になります。そのためには、用地確保など、どのような方策が行われるのか、また、財政的にはどのくらいの予算が必要だと考えているのか、わかる範囲で結構ですので、お示しいただきたいと思います。

そして、この道路の役割を、単に交通機能としてだけではなくて、魅力のある親しみやすい道路としたいと、冒頭の町長答弁で述べられましたように、空間としての機能性を高めて、この道路を歩くと気持ちがよいと、安心感を与えるようなシンボルロードとして、トータルデザインを描いて、地域ブランド戦略として位置づけするべきであると考えておりますけど、この辺についてはどのようにお考えなんでしょうか。

○議長（小林哲雄）

まちづくり部長。

○まちづくり部長（芳山忠）

はい。それでは、お答えをさせていただきます。

町道201号線についてですが、最終的な計画幅員としては7メートルで、歩車分離構造ということでございますが、これは、あくまでも最終的な完成の姿ということになりまして、これを速やかに実現に移していくというふうには、現在のところは具体的な計画としては持っておりません。したがって、かなり長期的な計画になるというふうに考えておりまして、今時点での予算上の総額、完全な完成図としての総額としては、申しわけございませんが、総額としては持っておりません。とりあえず現在の舗装状況を、ある一定のレベルまで改善していくということを一時的な目標として考えていきたいというふうに思っております。

また、シンボルロードとしての考え方でございますけれども、これは、この道路は、

開成町の中でも非常に歴史のある古い道路でございまして、都市計画マスタープランの中でも、シンボルロードとしての位置づけをしていくというふうな記載がございす。そのほかにも、開成町には、歴史的にはかなり古い道というものはございすが、そういったものともあわせて考えてはいかなければいけないというふうに思っております。特に、この町道201号線については、来年度、バス路線も変更になるといったこともございすので、より皆様に親しんでいただけるような道路、歩いてちょっと散策をしてみたいと思っていただけるような道路づくりというものをイメージしていきたいと考えております。

以上でございす。

○議長（小林哲雄）

茅沼議員。

○7番（茅沼隆文）

コンセプトはわかりました。そのとおりだろうと思います。ただし、また、次にももう1件テーマがありますけど、何をするときにおいても、昨日も同僚議員のほうで話がありましたけど、いつ、誰が、どこで、何を、どのようにしてやるかという、昔の言葉で言えば、5W1Hですよ、そういったのがきっちりと把握されていない、コンセプトを聞いてもね。夢物語でしかないんですね。もうちょっと具体性を持って、いつごろまでにどういうふうにするということをはっきりと言っていたけると、非常にこういうふうなところで一般質問して、議論をしていますが、議論がかみ合うなど、こんなふうにも思うわけですけど、今の今ではどうにもなりませんので、また、そういうふうな観点から、後日また議論をしたいと思います。

それから、201号線についてですけど、近年、道路や住宅地を新たに整備するときには、電柱を設置するのではなくて、電線を地中に埋めることが話題になっております。町道201号線を整備する際には、町のシンボルロードとして、電柱の地中化を進めていくべきだろうというふうに考えています。従来、道路の地下に管路を設けて収容する電線共同溝方式ですと、1キロメートル当たり3億5,000万円ほどかかるというふうに言われていますけど、電線を直接地下に埋める方法の場合は、1キロメートル当たり8,000万円程度で済むというふうに言われております。町道201号線は、総延長1.8キロメートル程度ですので、約1億四、五千万円ほどでできるというふうに計算されるわけですけど、この数字は、ネットで調べた大ざっぱな概算費用ですから、余り充てになりませんが、ぜひ調べていただきたいと思います。

これからの長期的な町づくりを視野に入れて、整備方針を決めて、計画的に事業を遂行することが必要だろうと思いますし、先ほども指摘しましたように、先行的な用地確保の方法を確立しておくということがまず必要だろうと思います。201号線のように、町の中心部を横断している道路を整備する際には、繰り返しになりますが、交通機能としての機能、役割だけでなく、空間機能としての役割が重要になってきています。道路をどのようにデザインするのか、これは地域ブランド戦略に

においても重要なファクターですから、行政の担当者全員が道路をデザインすると、単に道路を補修する、道路の線を引くということではなくて、道路全体を、空間機能をよく考えた上でデザインするという意識を持って取り組んでいただきたいというふうに思いますが、従来そういうふうな意識を持って取り組んでいただいていると思いますが、現状いかがでしょうか。

○議長（小林哲雄）

街づくり推進課長。

○街づくり推進課長（池谷勝則）

はい。今、議員の提案されるように、私ども考えているところではございますが、まず、一つ目の電線地中化というふうな案件でございます。既にこちらにつきまして、今、南部地区の幹線の都市計画道路、こちらだけしか今入れられない、つまり議員も言いましたように、費用がすごい、格段にかかってしまうと。また、この事業に参画していただけます電気業者、通信業者、こちらの方たちの協力がいただけないと、実施もなかなかできてこない。つまり採算性が合わなくなってしまうというようなこともございますので、今、助成金をもらうなり、町単独で行うにしても、事業として成り立つのがなかなか難しいのかなと。特に、電気、電信業者さんの協力を得られるのがなかなか難しいのかなと考えているところです。

また、先ほどからありました今後の201号線の計画が長期的な形で、時期的にもわからないじゃないかということ、また、用地の確保についてもありましたが、用地の確保につきましては、今後隣接する土地の土地利用が変わった時点で、その地権者さんのほうにご協力をいただくという方法で、随時確保できるところからお願いしていきたいと考えております。

ただ、この201号線だけではなく、開成町の町内、大分住宅街は値段も上がっております。高い金額で土地を購入された人が、その大切な財産を町の道路にご協力いただくということに関しましては、なるべく地価に合ったような価格で買収できるような形で私たちも考えておりますが、なかなか協力いただけるのが、行ってすぐという話ではありませんので、少しずつ進めるしか方法はないのかなと考えております。

また、今後の201号線の計画につきましては、先ほどからありましたように、いろいろな土地利用、または地域の利用に合わせた形の中で、デザインが変わってくるものかと思います。特に、開成駅の東側の、前に行いました区画整理のエリアのところにも、6メートル道路が一カ所、一方通行になりまして、少し蛇行させて、歩道を広げたり、狭めたりしている部分がございます。こういうことを行うことによって、人と車が共存できるような道路という一つの考えもあるのかなと思います。この201号線にそれが当たるかどうかというのもまた別としまして、今後このような地域全体の開発を含めて、道路だけではなく、地域も含めてのデザイン化を進めていく必要があるのかなと、このようには考えておりますので、参考にさせていただきます。

以上です。

○議長（小林哲雄）

副町長。

○副町長（小澤均）

全体的な、抽象的なことばかりで、なかなか目に見えるような整備だとかというふうなご指摘をいただきましたので、そのことについて少し触れたいと思うんですけども。

ご承知のとおり、開成町は小さな町で、もともと201号線沿道等については、昔ながらのそういうシンボルとなるような、道路沿いを形成していたというふうな歴史がございます。当然それは今後も大切にしていかなければいけないというふうには認識をしています。ただ、そういう昭和30年代、昭和40年代のころから、そういうまちづくりがされてきて、かなり老朽化してきていると。中には少し空洞化してきているような状況もあります。既成市街地のまちづくりと新市街地のまちづくりという部分からすれば、南部地区に新市街地の整備を、実態としてやってきているわけですね。ぜひ一つのモデルとして、新市街地を整備してきたということが、ただ、その基盤整備をして、いい宅地を設けるということではなくて、それを全町的に広げていくということの狙いも当然あるわけで、そういう意味で、新たにつくるまちづくりについては、もともと田んぼだったところを整備をするといった、整備のしやすさみたいなところがありますので、そういう形で宅地造成、道路整備、河川整備等をしてきたと。現状ではそれが完成しつつあるというふうになっています。ただ、既存市街地については、既存に住宅等があって、事業をそういう形に変えることの困難性、そういった事業費の膨らみ、そういったこともございます。

長い目で見ていただいて、できれば全町的に新市街地として整備したような南部地区のまちづくりを、ぜひ中部地域等についても浸透させていきたいというふうに思っています。

以上です。

○議長（小林哲雄）

茅沼議員。

○7番（茅沼隆文）

副町長がおっしゃることもよく理解できます。私も全くそのように思います。特に南部地域がああいうふうの開発されて、本当に夢がある新しい市街地で、いろんな人に夢を与えているなというふうなことは十分理解しておりますし、また、それを旧市街地というんですかね、この中部地域にも浸透させていきたい、本当にそういうふうと思うわけですが、誰でも思うことですが、道路については、幅員に絡む道路問題がそんなに早く解決するとは思えないわけですね。用地買収に時間がかかって、急げば急ぐほど費用もかさんでくると思います。今、副町長がおっしゃったとおりです。だからこそ、早目に計画を立てて、粘り強く交渉していくということが必要だろうと思います。

201号線の改良を考えると、何ととっても、旧四つ角付近がちょっと狭いということだろうと思います。多分錯覚かもしれませんが、紫水大橋ができてから、

さらにあの辺が混んできたというふうにも思います。数年前、多分5年くらい前だとも思いましたが、旧四つ角の南西の一角が更地になったときがありましたね。ああいうときにも、この四つ角、201号線道路として活用をするために何とかならなかったのかなというふうに思ったりするわけです。安全で魅力のある道路をつくっていくということを実現するためには、まず、幅員確保が最も優先される課題だろうと思います。

近郊では、南足柄の関本から大雄橋までへの拡張、それから、最近では、新松田の駅から旧246号線への拡張、これらは計画から完成までかなり日数、年月がかかっていたと思います。これらの手法を参考にするべきだろうと思います。

本日の一般質問では、身近な道路補修について、町道201号線の河原町・上島地域に続いて、吉田島総合高校前や旧四つ角から西側の補修についてお聞きしました。この件については、要望を聞いておくということで、特に吉田島総合高校の前では、これから審議する補正予算の議決次第ですけど、今年度の補修を考えているということですね。

それから、227号線の補修については、これも109号線との兼ね合いがあるとは思いますが、要望を聞いておくというところでとどまってしまい、いつまでにするかということが明確に答弁いただけませんでしたけど、また、後ほどスケジュールが決まったらご案内いただきたいと思います。

それから、道路の整備スパンについても、これも先ほど街づくり推進課長のほうからも答弁がありましたけれど、これもスパンの長さが本当に適切なのかどうなのか、しっかりと検証しながら進めていただきたいと思います。

それから、将来構想として、地域ブランド戦略の考え方から、201号線の幅員を7メートルとして、車道と歩道の分離構造とするというのについては、これは現時点ではあくまでもコンセプトであって、その具体的なスケジュールがまだ明確化されていない、コンセプトはコンセプトで結構ですので、早急にこれを具体化、具現化できるようなスケジュールリングをしていただければと思います。これも要望になりますけど、ぜひ記憶にとどめておいていただきたいと思います。

電柱の地中化について、これもぜひ検討していただきたいと思います。電気事業者等と色々な兼ね合いがあるとは思いますが、これからのまちづくりというのはこういうふうなことをしっかりと考えて、実行して実現していかないと、相変わらずのまちづくりになってしまって、特に人口減少が叫ばれている今日、開成町の魅力は何なんだといったときにも、町にせっかく来ようという人ががっかりするようなことになってしまいますので、ぜひ実現に向けて、前向きな検討をいただきたいと思います。

本日こういうふうに議論させていただきましたけれど、特に、開成町のこの道路行政について、今までいろいろと色々な議員も議論してまいりましたが、特に201号線ですね、開成町の中心を通っている道路ですので、この辺の整備をきっちりとしていただいて、開成町に住んでみたいと思う人が、この道路を通ったときに、ああ、こんな道しかできていないんじゃないんだ、ということのないように、きっちりと整備し

ていただけるように希望いたします。

最後になりますけど、町長、何か総括的なコメントがあればお聞きしたいと。

○議長（小林哲雄）

町長。

○町長（府川裕一）

いろいろ茅沼議員には、道路を通して、今後のまちづくりのあり方についてご意見をいただき、本当にありがとうございます。気づかしていただく部分、私もあります。実は、道路に関して中長期的にきちんと考えていくというのはすごく大事なことで、改めて認識しました。やはり新しい、どうしても都市計画道路ほか、そういうところに目が行ってしまって、既存の、例えば201号線もそうなんですけど、その道路をこれからどうしていくかという将来的なものができていなかったと、考えていなかったという部分は反省をしています。

今回路面調査をさせていただいた中で、各自治会ごとに、やはり地域要望で、うちの前の道路はこんなにひどいんだよ、といろんなところから出ていました。そういった中で、今回はちゃんと客観的な数字で調査を出させていただいて、順番をつけさせていただきますということで、各自治会長さんにも話をさせていただいております。それがまだきちんとお示しができていない部分があるのかもしれませんが、そういった中で、きちんとその数字の中で出ていますので、その中で路線を決めます。路線を決めて、先ほど課長も話しましたが、全部が悪いわけではなくて、部分部分で悪いところが、激しいところがありますので、それはきめ細かく分けてやっていったほうが、ほかの路線まで広げる、時間的にも予算的にも早くできるということでもありますので、一つの路線を決めたら、それを全部一斉に、一遍にやるという考えではなくて、優先順位を決めた路線の中でも、さらに悪いところは先にやる、そういう形で、できるだけ早く悪い部分をできる方策をきちんと考えて、また、その順番もきちんと計画を立てて、議会の皆さんにも、自治会の皆さんにもお示しできるように、今、今年度中にそれは計画をきちんと立てさせていただきたいと思います。

201号線の将来に対して、7メートルにするにはなかなかまだまだ、その計画も、今回の前期基本計画の中にも入っておりませんので、それは6年先の後期基本計画の中にきちんとこれからは入れ込んでいかなきゃいけないと思っています。

先ほどの路面調査は、これ、3年ごとの実施計画ですので、来年で3年間の計画が終わります。その次の実施計画の中に、路面調査の結果を含めて、きちんと、いつどこの路線を幾らかけてやるというのを載せていく必要があると思っています。それを間に合わせるように、本年度中にやっていく必要はあると思っています。

ぜひこれからも一番大事な町政60年に向けて、今、茅沼議員が言われたように、ブランディングをしております。これも2月1日に間に合うように、開成町の将来にとって大切な今戦略を立てている時期だと思っています。これが確定しますと、これに沿って今度は道路行政をどうしていくか、公園をどうしていくか、町のそれぞれのイベントをどうしていくか、そのイメージのもとに、ブランドができ上がったもの

の一つの統一性の中で、これから行政を進めていくことが可能になると思いますので、この6月から、今やっているブランディング戦略ができ上がると、それに沿ってできていると思っていますので、これ、また、途中経過の中で皆さん方にご意見をいただきながら、きちんとブランドを確立していきたいと思っていますので、ぜひその点もご理解をいただきたいと思います。

以上です。

○議長（小林哲雄）

茅沼議員。

○7番（茅沼隆文）

町長の総括的なご答弁をいただいた後で申し上げるのは大変僭越ですけど、今、地域ブランド戦略のことが出てきましたので、一言だけ追加させていただきたい。

3月の議会のときに、開成町のよいところを一つ一つ拾い出して、それを表に出して、それを外にPRできるような仕組みを考えていくべきだというようなことを申し上げました。そのときに、教育長のほうから、開成町でやっているのびのび保育、すくすく保育、これは全国で例がない、開成町だけの非常にすばらしい取り組みであるという話もお聞きしました。そういうふうなこと等を含めて、一つ一つを列挙して、プロジェクトチームでもつくって、こういうのをブレインストーミング手法と言いますが、一つずつ出して、それをどういうふうにしてトータル的な戦略に結びつけていくのかということをご検討して、実行していただきたいと思います。

ちなみに、よその市町の名前を出すのはちょっと気が引けますけれど、今、日本中で地域ブランド戦略を構築しようとしているところはたくさんあります。その中で、私が調べた中では、長野県の塩尻市の地域ブランド戦略が非常にすぐれている戦略だというふうに認識しております。このネットでもわかりますので、塩尻市の地域ブランド戦略、ぜひダウンロードして研究していただきたいと思いますというふうに思います。

単純にハードの問題だけでなく、ソフトの問題、そこに住む人たちの心の意識の持ち方、こういうふうなことでもしっかりとブランド化している。開成町に来ると、本当に開成町に住んでいる人は心があたたかいなと。あそこの町に行っただけで気持ちがあたたかくなると、こういうふうな雰囲気を持った開成町にぜひ来てほしい。これが、人と自然が輝く未来のまちづくり、第五次総合計画のスローガンであろうとも思いますので、ぜひよろしくお願いいたします。

また、今日の一般質問、201号線を中心とした件については、街づくり推進課長も、財政的に非常に難しい中でいろいろと答弁いただいたこと、改めて敬意を表したいと思います。ありがとうございました。

これで私の質問を終わります。

○議長（小林哲雄）

暫時休憩いたします。再開を11時5分とします。

午前10時48分